

いたちかわらばん

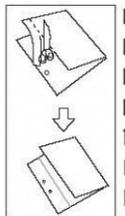
通刊 94 号 颯川・狹川 / 川原番・瓦版 (24 夏号)



【版画 宗森英夫 通刊 33 号の版画を再掲】 (いたち川橋)

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



進化は続く「永」の字と川の流れと

生える、生まれる、生きるのに水は欠かせません。「川」は水が流れる様子を示しています。流れる途中で水が分流したり、合流したりする様子から時間の流れを表す「永」の字が考えられて、自然界と時間が支えている暮らしを、世代を超えて伝え続けている使命をこれから先々もどこまでも守っていかなければならないと思います。

人間の暮らしは自然界の恩恵に支えられ、関係しあっています。伝えあう方法として文字を発明し、感性を伝えあう芸術、ものづくりの技術も進化しました。電子機器の発達は、これから先々の世代にどのような影響を与えるのでしょうか。

地球上では気候変動が繰り返して起っていますし、歴史は人類・動物・植物等の移動も解明しています。今後は研究が進むにつれて、宇宙規模の未知の現象にも対応しなければならぬのかもしれない。

代々受け継ぐ生命、感じあい、いろいろな考え方を学びあい、協力するチームワークが大切です。多世代の交流、体験の場をどのようにつくっていくのがよいか、私達のことから課題であると思います。(うぐいす)

「鎌倉郡三十三観音巡礼」冊子とパンフレットが発行される



令和5年12月に栄区・石塔歴史調査研究会によって「鎌倉郡三十三観音巡礼」冊子32ページと携帯して見るように案内図入りのパンフレットが発行されました。

旧鎌倉郡（鎌倉市、横浜市、藤沢市、逗子市）の中の寺院を1年かけて全てを訪ね歩き、各寺院の住職に話を聞きその由来や現状などが記載されております。

中には廃寺となっているものや移転され東京に移っている寺もあります。

栄区には、第15番札所笠間町の法安寺、第16番札所公田町永林寺、第17番札所上郷町光明寺、第31番札所飯島町勝福寺があります。隣接する戸塚区にも6カ所の札所、泉区に4カ所の札所があります。

こちらの冊子をご所望の方は、「栄区石仏・石塔歴史調査研究会」の梅川（045-894-3880）までお問い合わせください。

☆本郷台駅周辺の史跡やいたち川の散策☆

本郷台駅周辺の第一海軍燃料廠跡、鎌倉街道集合地点（上道・中道・下道）といたち川の下流域の多自然型工法の見学と、サファイア原石の生産、ルチル原石の生産でも世界有数の信光社の見学を予定しています。

日時：令和6年9月17日（火）

集合場所：天神橋バス停

集合時間：10：00

天神橋バス停→栄共済病院前→城山橋（いたち川プロムナード）→警察学校橋→花ノ木橋（河川敷で工法説明）→新橋→赤坂川→七石山遺跡→旧鎌倉街道（赤坂川）→信光社→本郷台駅（解散）

*雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。

読者からのたより

洪水想定浸水深の件ですが、年末に看板が張り替えられてまして城山橋のところは、1.4mとなり、本郷台駅の近くも0.3mで、少し安心しています。

しかし、近年は地球温暖化の影響でしょうか。線状降水帯が発生しやすく、長時間雨を降らせることが多くなってきたので、あまり安心ばかりはしてられないような気がします。過去の洪水等でこれ位の浸水があったのでしょうか。最近線状降水帯というのをよく耳にしますので気をつけねばと思っています。(若原俊彦)

《過去の台風などで個人的に記憶している溢水は！》
昭和40、50年代の台風では、笠間交差点付近や天神橋上流部などで床上浸水、本郷台駅前10cm位の洪水が起きていますが河川改修が進むにつれて洪水の記憶はありません。2001年には右支川が溢れ本郷小学校の脇を通って本川に流れ込むことがありましたが、その後上流部に本川へのバイパスが作られたため溢れることはありません。

2014年の台風の直撃を受けましたが河川脇の公園や散策路までの溢水で済んでいるようです。

1976年 笠間交差点付近洪水状況写真



参加費：100円（保険料等）

持ち物：飲み物、雨具

参加人数：20名（先着順）

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで住所・氏名・ふりがな・電話番号を明記の上、令和6年8月22日（木）までに下記に応募して下さい。（当日消印有効）

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19
（電話）894-8161（FAX）894-9127
（アドレス）sa-kikaku@city.yokohama.jp
栄区役所区政推進課企画調整係

※内容については、和久井（いたち川OTASUKE隊、080-3498-0552）

発行年月
2024年6月

通刊94号

発行：狹川 OTASUKE 隊（いたちがわおたすけたい）

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

編集協力：栄土木事務所下水道・公園係 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

いたち川の自然再生への試み (その1)

自然物を改変する開発等は 1975 年代までは人工物になった構造物の終了した時点で完成形としてきたのが一般的でした。

環境復元が叫ばれたころから開発などで破壊した自然を再び自然に近づけるための努力をし、そこで初めて開発等が完結すると言う発想が根付てきました。

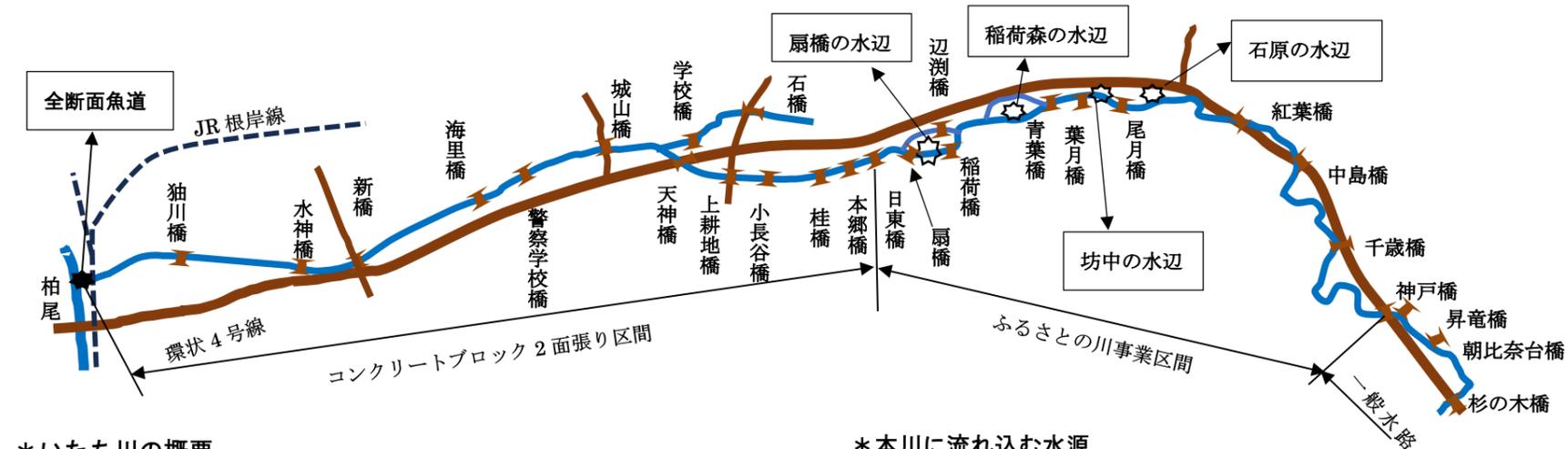
いたち川においては治水工事の完了後の自然環境復元工事を行ってきた箇所と、最初から環境保全を考慮して施工した区間があります。その箇所に工事内容を説明していきます。

*コンクリートブロック2面張り区間

日東橋～柏尾川合流部までの区間の内いたち川橋間 3 km区間を自然環境復元整備がされています。その区間は低水路整備として複断面構造として最初に施工した区間です。

*ふるさとの川事業区間

1982 年(昭和 62 年)ふるさとの川モデル事業の指定をうけその後モデルがなくなり事業が継続されています。湧水・親水対策として水辺の広場を 4 か所整備され、治水のため溢水を緩和する為の遊水地となっています。



*いたち川の概要

当河川は栄区を源として柏尾川の左支川として藤沢市で境川に合流、江の島で太平洋に流れ込む境川水系 2 級河川です。

全延長は 9.0 km (都市計画部分、神戸橋区間 6.17 km、ふるさとの川区間 2.5 km) 流域面積 13.88 km²、河川勾配 1/500、計画高水流量 75 m³/s、川幅 13.6m~18.6mです。

*本川に流れ込む水源

新橋右岸には上流から長倉町で横浜観察の森より流れ出る小川と本川と合流し、神戸橋下流で野七里掘り、光明寺脇に合流する梅田堀(暗渠)、稲荷橋脇の矢沢堀、区役所裏右支川(さるた川)左支川(洗井沢川)、海里橋際の椎郷堀、新橋右岸赤坂川、左岸には鎌倉市から流れ込む溝川が主な水源となっています。



いよいよ「はまの仙人」が住んでいた住居跡が見えてきました。北向きの急な崖にどうにか基礎を固めて建てられた建物で現況は廃墟です(写真上)。「はまの仙人」については、「栄区ホームページ」でいちかわらばん9号、71号の関係記事をご覧ください。この上流の水田跡や灌漑用洞穴の観察は、倒木などで通行が危険なため源流探索は取りやめました。環状4号線に戻り横浜自然観察センターで見学と昼食休憩をしたら、「上郷森の家」ご利用のお勧めや「長倉町小川アメニティ」の説明などをして、午後2時長倉町バス停で初春の爽快なウォーキングの解散となりました。(うめおきな)

2月20日(火)、いたち川初春のウォーキング、いたち川最南東部の翠風荘東麓の水源の探索ウォーキングを開催しました。前夜から朝方までは雨で危ぶまれた天気も天神橋バス停に集合の午前10時には晴れました。神奈中バス「上郷」で下りて坂を少し下りるといたち川の源氏橋です。昨夜の雨がかなりあったため横浜自然観察の森方面からの水量がいつもより多い状況です。ここで横浜園方面の左支川が合流しています。今回はこの右手のせらぎに進みます、小さな橋「みなもと」の橋、みなもと二の橋、みなもと三の橋と続きます。左手は昭和30年ごろ「源氏ヶ家丘別荘地」として売出された場所で、以前は陶芸の窯跡や畑などがありました。現況は山の原野です。いたち川の川底はもう岩だけの源流の風情満点です。いたち川沿いの岩壁にはイワタバコが繁茂しているほか多くの植物が観察できます。

栄区いたち川の最南東の水源を探索 〜2024年初春のウォーキングレポート〜

NHK 朝ドラ 「らんまん」の植物(その3)

らんまんのモデルとなっている牧野富太郎博士の著書には図鑑から自叙伝まで発行しています。其中で「なぜ花は匂うのか」の冒頭で「私は植物を愛人として・・・」に続いて「人間は植物がないと生きていけない。植物に生かされているとの思いがある」との一節に感銘しました。

博士が台湾で病気をした際にアイギョクシ(愛玉子)の粉末を現地の人に飲まされ快復した後に強く感じたようです。ドラマのなかではオーギョーチとして紹介されていますが粉末の状態の名称の様です。

アイギョクシはオオイタビカズラの変種でクワ科イチジク属のつる性植物で紫色に熟したものはイチジクと同様の味がする様です。オオイタビカズラはいたち川沿いで小長谷橋上流右岸の壁面に植えられています。

ドクダミ(葎菜)は長屋の周辺に繁茂して軒先に干している映像がたびたび出てきました。ドクダミはドクダミ科ドクダミ属の多年草で古くから民間薬として利用され、生薬としては十薬(じゅうやく; 重薬、葎菜)とよばれる。薬用の他に茶など食用にされてきました。

オオセキソウ(ツククサ)(露草・鴨跖草)は、ツククサ科ツククサ属の一年生植物。日本を含む東アジア原産で、畑の隅や道端で見かけることの多い雑草である。鮮やかな青色の花は朝に咲き、昼にはしぼむ。開花期に全草を乾燥させたものが生薬オウセキソウ(鴨跖草)で、その煎液を解熱、利尿、感冒、熱性下痢、浮腫などに用います。食用には、生の茎葉をそのまま軽く茹でて、サラダ、和え物にします。アクが少なく美味しく食べることができます。ツククサの古名は、ツククサ(着草)と呼び、古くは万葉時代にはすでに摺染(すりぞめ)に用いられていました。ツククサの花汁で染めた布は水に浸すと簡単に色が抜けるので、友禅や紋染めの下絵に用いられるようになりました。

いたち川沿いには日東橋下流で見られる白い花のツククサは、トキワツククサで「生態系被害防止外来種」に指定され、駆除の対象です。秋期に樹林道を散歩していると濃紫の実をつけたヤブミョウガを目にすることが出来ますが食用にしているショウガやミョウガとは同族でなくツククサ属です。(水・人・子)

編集後記

次号から、らんまん植物欄は引き続き栄区全域の植物と共に紹介していきます。

いたち川の環境復元はその場所に適合する工夫がされているようで、時系列的に工法や生物に対する配慮などを含めて解説していきます。